

令和3年度 宇部工業高等専門学校自己点検・評価結果

1 評価

評価の概要

宇部工業高等専門学校自己点検表基準1から基準10までの点検項目について、実施状況（各部署による自己点検結果）を「S：特に優れている」
A：良好である B：概ね良好である C：不十分である」の4段階で評価した。

各基準の自己点検に対する評価の概要を以下に示す。

（基準1）教育の内部質保証システム

- ・概ね良好と判断する。
- ・準学士課程、専攻科課程ともに、ディプロマ・ポリシーとの整合性を確認し、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを改定している。

（基準2）教育組織及び教員・教育支援者等

- ・良好と判断する。
- ・グローバル人材育成のため、外国籍の教員を含めた公募を実施している。

（基準3）学習環境及び学生支援等

- ・良好と判断する。
- ・学内施設の効果的利用のため、校舎のゾーニング計画（案）を策定している。

（基準4）財務基盤及び管理運営

- ・良好と判断する。
- ・外部の教育資源を有効に活用している。

（基準5）準学士課程の教育課程・教育方法

- ・概ね良好と判断する。
- ・プロジェクト学習の実施により得られた成果・問題点を教員間で共有する場を設けている。
- ・新型コロナウイルスの影響により渡航が困難なため、海外3大学（マラ工科大学、シンガポールポリテクニク、永進専門大学）の協力を得てオンライン型「海外研修」「語学研修」プログラムを開発し、コロナ禍以前よりも多数の学生が参加している。

- ・新カリキュラム対応の4年生にPROGアセスメントを行い、前年度に実施した旧カリキュラム対応の4年生の結果と比較して、新カリキュラムの教育効果について検証している。

(基準6) 準学士課程の学生の受け入れ

- ・良好と判断する。
- ・最寄り地受験制度を希望する受験生に対し、適切に対応している。

(基準7) 準学士課程の学習・教育の成果

- ・良好と判断する。
- ・進学率、就職率ともに100%となっている。

(基準8) 専攻科課程の教育活動

- ・概ね良好と判断する。
- ・新カリキュラムの整備を進めている。
- ・進学率、就職率ともに100%となっている。

(基準9) 研究活動の状況

- ・良好と判断する。
- ・外部研究資金獲得のための説明会を2回開催している。
- ・テクノフェア、校長裁量経費報告会及びテクノカフェ（2回）を開催し、研究活動に対する情報発信を行っている。

(基準10) 地域貢献活動等の状況

- ・良好と判断する。
- ・県内企業12社との面談（訪問又はWEBによる）を実施している。

運営諮問会議における評価と意見

- ・総合的に良好であるとの評価であった。
- ・いじめ対策に関する点検項目を設定した方がよい。
- ・学生に対する各種アンケートを実施しているが、学生がどのような教育を求めているか把握しているか。それを踏まえて教育内容を再検討するなどのフィードバックが重要である。

2 改善を要する点

改善を要する点

B評価とした項目のうち、以下の点については改善を要すると判断した。

(基準1) 教育の内部質保証システム

1-14 保護者からの意見聴取を行なっているが、自己点検・評価に十分反映されていない。

(基準5) 準学士課程の教育課程・教育方法

5-11 シラバスの作成マニュアルを配布しているが、作成したシラバスの相互チェック体制が十分とはいえない。

5-16 学修単位科目における学生の授業外学習時間が十分に把握できていない。

5-21 試験のレベルが適切であるか十分なチェックがなされていない。

(基準8) 専攻科課程の教育活動

8-6 シラバスの作成マニュアルを配布しているが、作成したシラバスの相互チェック体制が十分とはいえない。

8-11 学修単位科目における学生の授業外学習時間が十分に把握できていない。

8-16 試験のレベルが適切であるか十分なチェックがなされていない。

また、運営諮問会議における意見をふまえ、以下の点についても、改善を要すると判断した。

(基準1) 教育の内部質保証システム

1-9～13 学生に対する種々のアンケートの結果について適切な部署において検証し、改善に結びつける必要がある。

(基準3) 学習環境及び学生支援等

いじめ対策に関する自己点検の項目を設ける必要がある。

令和3年度宇部工業高等専門学校自己点検表

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準1 教育の内部質保証システム			
【内部質保証】			
1-1 自己点検・評価の方針は関係法令に適合しているか。	自己点検・評価の方針が関係法令に適合しているか確認する。	自己点検・評価の方針が関係法令に適合していることを確認した。	A
1-2 自己点検・評価の体制（委員会等）に不備はないか。	委員会等の構成を確認する。	適切な体制となっていることを確認した。	A
1-3 自己点検・評価の基準や項目は適切であるか。	学校教育法第109条に沿った自己点検・評価の基準及び項目となっているか点検する。	適切であることを確認した。	A
【自己点検・評価の実施】			
1-4 文書管理規則に従い、資料は適切に管理・保管されているか。	文書管理規則に従い、適切に管理・保管する。	文書管理規則に従い、各部署において適切に管理・保管を徹底した。	A
1-5 自己点検・評価を定期的実施し、その結果を公表しているか。	自己点検・評価を実施し、公表する。	令和2年度自己点検・評価結果を6月にHPにて公開した。	A
【学内意見聴取】			
1-6 自己点検・評価は教員の意見を反映しているか。	教員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	授業改善アンケート報告書兼授業改善計画書及び職務上の活動に関する自己申告書を評価結果に反映した。	A
1-7 自己点検・評価は事務職員の意見を反映しているか。	事務職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	各部署の点検結果を評価結果に反映した。	A
1-8 自己点検・評価は技術職員の意見を反映しているか。	技術職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	実験室・演習室の整備状況等の評価結果を反映した。	A
1-9 自己点検・評価は学生の意見を反映しているか。	学生への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	学生に対する各種アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-10 自己点検・評価は学生の授業評価の結果を踏まえて行っているか。	学生の授業評価の結果を自己点検・評価に反映する。	授業改善アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-11 自己点検・評価は学生の教育・学習の達成度を踏まえて行っているか。	学生の教育・学習の達成度を自己点検・評価に反映する。	卒業・修了時アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-12 自己点検・評価は学生の学習環境を踏まえて行っているか。	今回は令和4年度に実施予定である。	卒業・修了時アンケートを実施した。	A
1-13 自己点検・評価は学生の満足度を踏まえて行っているか。	学生の満足度を自己点検・評価に反映する。	卒業・修了時アンケート及び授業改善アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
【学外意見聴取】			
1-14 自己点検・評価に際し、保護者の意見を反映しているか。	保護者への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	保護者会期間中にアンケートを実施した。	B
1-15 自己点検・評価に際し、卒業生の意見を反映しているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-16 自己点検・評価に際し、就職先企業の意見を反映しているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-17 自己点検・評価に際し、進学先教育機関の意見を反映しているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-18 自己点検・評価は卒業生・修生生の学習成果の効果を踏まえて行っているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-19 自己点検・評価は就職先・進学先における学習成果の効果を踏まえて行っているか。	来校した企業・進学先関係者に対する意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-20 自己点検・評価結果を改善に結び付ける体制となっているか。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付けることができる体制となっているか確認する。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付けることができる体制となっていることを確認した。	A
1-21 前回機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続しているか。	令和2年度機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続する。	令和2年度自己点検・評価結果を6月にHPにて公開した。また、試験における同一出題の防止、シラバスに沿った評価の徹底について各学科で取り組んでいる。	A
1-22 運営諮問会議における指摘・コメントに対する対応を行っているか。	運営諮問会議において意見を聴取し、その課題に対する改善を行う。	インターンシップ、卒業研究が実践力を育む教育であることをシラバスに明記した。	A
【3つの方針】			
1-23 学習・教育目標は適切であるか。	学習・教育目標は適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	準学士課程、専攻科課程ともに審議の結果、見直しの必要は無いと判断している。	A
1-24 ディプロマポリシー（DP）は適切であるか。	DPが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	準学士課程、専攻科課程ともに審議の結果、見直しの必要は無いと判断している。	A
1-25 カリキュラムポリシー（CP）は適切であるか。	CPが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	準学士課程、専攻科課程ともにカリキュラムとの整合性を確認し、CPの改定を行った。	A
1-26 アドミッションポリシー（AP）は適切であるか。	APが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	準学士課程、専攻科課程ともにAPの改定を行った。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準2 教育組織及び教員・教育支援者等			
【教育に係る組織の体制】			
2-1 学科・専攻の構成は適切であるか。	学科・専攻科の構成が適切であるか審議する。	入学志願者数及び求人数より、社会のニーズに適した学科・専攻の編成であると判断した。	A
2-2 教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか。	教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか審議する。教育活動を展開するための各種委員会を適切に開催する。	各委員会を定期的実施した。	A
【教員】			
2-3 一般科目の教員配置は適切であるか。	一般科目の教員配置が適切であるか検証する。	適切に配置されていると判断した。	A
2-4 専門科目の教員配置は適切であるか。	専門科目の教員配置が適切であるか検証する。	適切に配置されていると判断した。	A
2-5 教員の採用は公募により適切に行われているか。	公募により教員の採用を行う。	電気工学科1名、経営情報学科1名、一般科1名の計3名をすべて公募により採用した。	A
2-6 教員の昇任は適切に行われているか。	教員の昇任を適切に行う。	5名（教授2名、准教授3名）の昇任人事を行った。	A
2-7 教員の評価は適切に行われているか。	教員の評価を実施する。	令和4年1月から3月にかけて、自己評価、学生による教員評価、教員相互評価を実施した。	A
2-8 教育方法に関するFDが実施されているか。	教育方法に関するFDを実施する。	教務部によりPROG解説会およびポートフォリオ教育講習会を実施した。	A
2-9 FDが教育の改善に結び付いているか。	FD後にアンケートを実施し、教育が改善されているか確認する。	PROGおよびポートフォリオ教育に関しては継続的に検証していく予定である。	—
【教育支援者】			
2-10 教育支援者（事務職員、技術職員、図書館職員）の配置は適切であるか。	教育支援者の配置が適切であるか検証する。	適切であると判断した。	A
2-11 教育支援者に対するSDが実施されているか。	学内SDを実施する。また、高専機構等主催のSDに参加する。	学内SDを適切に実施した。また、外部主催のSDにも参加させた。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準3 学習環境及び学生支援等			
【施設・設備】			
3-1 校地面積は適切であるか。	校地面積が適切であるか検証する。	法令に適合している。	A
3-2 校舎面積は適切であるか。	校舎面積が適切であるか検証する。	法令に適合している。	A
3-3 実習工場は適切に整備されているか。	機械工作実習に必要な設備・機材を整備・準備する。	適切に整備している。	A
3-4 各実験室は適切に整備されているか。	実験に必要な設備・機材を整備・準備する。	学科会議で定期的あるいは必要に応じて審議・確認している。	A
3-5 各施設・設備の安全衛生管理体制は機能しているか。	定期的に安全衛生委員会を開催する。	月に1回安全衛生委員会を実施している。	A
3-6 バリアフリー化への配慮を継続的に行っているか。	バリアフリー化への配慮を継続する。	適宜実施している。	A
3-7 施設・設備に関する満足度を調査しているか。	施設・設備に対する満足度を調査する。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
3-8 施設・設備の満足度を向上するための改善を行っているか。	満足度を向上するための改善を行う。	必要に応じて随時修繕・補修を実施した。	A
【ICT環境】			
3-9 ICT環境の整備は適切であるか。	ICT環境を適切に整備する。	情報処理センターにより適切に整備され、教職員及び学生は快適に使用できている。	A
3-10 ICT環境のセキュリティ管理体制は適切に機能しているか。	情報セキュリティ管理を徹底する。	全教職員、学生に対して、情報セキュリティに関する宣誓書を提出させた。	A
3-11 ICT環境は有効に活用されているか。	ICT環境を有効利用する。	ほとんどの学科、学年において情報処理センターが管理する演習室（計算機室）が利用されている。	A
3-12 ICT環境に対する満足度を調査しているか。	ICT環境の満足度調査を実施する。	卒業生・修了生（卒業時アンケート）および在校生に対する調査を実施した。	A
【図書館】			
3-13 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が系統的に収集・整理されているか。	図書等を適切に管理するとともに、新規図書等を適切に収集する。	各学科により選定した図書を購入した。	A
3-14 図書、学術雑誌、視聴覚資料等は有効に活用されているか。	図書等の利用状況を調査する。	図書館来館者数は31,877名、貸出図書数は4,163冊であった。	A
3-15 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が有効に活用されるための取り組みを行っているか。	図書等の利用を促進する取り組みを実施する。	図書館HPに新着案内や特集を掲載するとともに、図書館だよりを発行している。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
【ガイダンス】			
3-16 準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	新入生オリエンテーションを実施した。	A
3-17 専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	第1・3学期の初めにオリエンテーションを実施した。	A
3-18 編入生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	編入生に対する教育上のガイダンスを実施する。	今年度は該当なし。	—
3-19 留学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	留学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	留学生に対する教育上のガイダンスを実施した。	A
3-20 障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	修学支援室により対象学生及び保護者に対する面談及びガイダンスを実施した。	A
3-21 社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	今年度は該当なし。	—
【学生のニーズ把握・支援】			
3-22 担任制・指導教員制は有効に機能しているか。	担任指導、指導教員による指導を行う。	準学士課程の学生に対しては、担任のしおりを配付するとともに担任連絡会議を1回実施し、担任指導の方針と方法を説明した。専攻科生に対しては指導マニュアルを配付した。	A
3-23 オフィスアワーは有効に機能しているか。	オフィスアワーを実施し、利用者数を把握する。	オフィスアワーを実施した。利用者はのべ3788名であった。	A
3-24 保健室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	保健室利用者は延べ1042人であった。	A
3-25 相談室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	学生相談室の利用者は延べ1709人であった。	A
3-26 キャリア相談室・資料室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	キャリア相談数は212件、資料室利用学生数（6/15～3月末）は137名であった。	A
3-27 （障害学生）修学支援は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	修学支援室にてウォッチリストを作成し学生の見守りを行っており、有効に機能していると判断できる。	A
3-28 学生への経済的支援（授業料免除、各種奨学金）は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	高等教育の修学支援新制度利用者数は給付奨学金138名、授業料免除138名、高専機構授業料免除利用者は19名、日本学生支援機構貸与奨学金利用者は20名、民間等奨学金利用者は26名、学生支援緊急給付金利用者は67名であった。	A
3-29 資格・検定試験支援制度は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	資格取得奨励制度利用者は86名であった。	A
3-30 海外への留学支援は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	今年度は留学を見合わせた。	—
3-31 学生会あるいは学生との懇談会を実施しているか。	学生会との懇談会を実施する。	学生会リーダー研修を実施した。コロナウイルス感染防止のため、学生部と学生課が連携を取りながらクラスマッチ及び高専祭を成功させた。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
【キャリア指導・支援】			
3-32 進路指導ガイダンスを実施しているか。	ジェネリックスキルにおいてキャリア教育を実施する。	ジェネリックスキルにおいてキャリア教育を実施した。	A
3-33 進学・就職に関する説明会を実施しているか。	進学・就職に関する説明会を実施する。就職・進学活動に関するガイドブックを配布する。	合同企業研究会を実施したほか、4年生に対して「就職・進学活動のメンタルヘルス講習会」を実施した。また、4年生と専攻科1年生に「就職・進学活動ガイドブック」を配布した。	A
【課外活動】			
3-34 課外活動に対する支援は有効に機能しているか。	学生会を通じた活動費の配分や学外コーチの採用などの支援を行う。	課外活動費を配分した。外部指導員・学外コーチを配置し支援を行った。	A
3-35 課外活動に対する責任体制は適切であるか。	責任体制を明確にするとともに、教員と学生に周知する。	各クラブに1～3人の顧問を配置するとともに、活動時間中は学生主事又は学生主事補が緊急対応ができる体制としている。	A
3-36 課外活動に対する責任体制は有効に機能しているか。	責任体制が有効に機能しているか検証する。	クラブ指導教員会議を実施した。課外活動指導報告書も適切に提出された。	A
【学生寮】			
3-37 学生寮は生活の場として有効に機能しているか。	生活の場として有効に機能しているか検証する。	有効に機能していると判断した。	A
3-38 学生寮は勉学の場として有効に機能しているか。	勉学の場として有効に機能しているか検証する。	個人で学習する環境は整っており、有効に機能していると判断した。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度も多数が集まるSMAP（学生主体の学びの場）は実施できなかった。	A
3-39 学生寮の管理・運営体制は有効に機能しているか。	管理・運営体制が有効に機能しているか検証する。	有効に機能していると判断した。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準4 財務基盤及び管理運営			
【財務】			
4-1 貸借対照表等による財務状態は適切であるか。	適切な会計処理を実施する。	適切な会計処理を実施した。	A
4-2 運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。	適切な会計処理を実施する。	適切な会計処理を実施した。	A
4-3 収支状況が支出超過となっていないか。	適切な会計処理を実施する。	適切な会計処理を実施した。	A
4-4 収支に係る方針、計画が適切なプロセスで決定されているか。	適切なプロセスで予算を決定する。	予算委員会を実施し、戦略的かつ計画的な予算管理を目的とした当初予算を計上し、配分を行った。	A
4-5 収支に係る方針、計画は適切であるか。	予算計画が適切であるか検証する。	適切であるであると判断した。	A
4-6 収支に係る方針、計画は教職員に明示されているか。	予算計画を教職員に明示する。	サイボウズにより教職員に明示した。	A
4-7 収支に係る方針、計画と資源配分が整合しているか。	予算と資源配分の整合性を検証する。	整合していると判断した。	A
4-8 財務状況が法令に基づき適切に作成・公表されているか。	財務状況を作成し、公表する。	学校要覧により公表した。	A
4-9 財務に係る監査が適切に実施されているか。	適切な監査を実施する。	令和3年度会計内部監査及び公的研究費に関する内部監査を実施した。	A
【管理運営】			
4-10 管理運営体制が有効に機能しているか。	管理運営体制が有効に機能しているか検証する。	機能していると判断した。	A
4-11 管理運営に係る委員会が有効に機能しているか。	管理運営に係る委員会が有効に機能しているか検証する。	毎週火曜日の組織・運営検討委員会及び月1回の運営委員会が確実に実施した。また、会議資料や議事概要は、サイボウズに掲載し、全教職員に明示した。	A
4-12 校長、主事等の役割分担は適切であるか。	校長、主事等の役割分担が適切であるか検証する。	機能していると判断した。	A
4-13 教員と事務職員の役割分担は適切であるか。	教員と事務職員の役割分担が適切であるか検証する。	機能していると判断した。	A
4-14 教員と事務職員との連携体制が有効に機能しているか。	教員と事務職員の連携体制が有効に機能しているか検証する。	有効に機能していると判断した。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
【危機管理】			
4-15 危機管理体制は有効に機能しているか。	危機管理体制が有効に機能しているか検証する。	有効に機能していると判断した。コロナウイルス感染拡大防止のため、適宜リスク管理室会議を開催した。	A
4-16 危機管理マニュアルは適切であるか。	危機管理マニュアルの見直しを行う。	適切である。危機管理マニュアルの見直しを行った。	A
4-17 危機に備えた訓練を実施しているか。	避難訓練を実施する。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から1～3年生を対象とした防火避難教育をホームルームの時間に行った。また、教職員は通報訓練及び誘導・避難経路の確認等を机上で行った。	A
【外部資金の活用】			
4-18 外部資金を獲得する取り組みを行っているか。	外部資金獲得のための講演会や説明会を実施する。	オンラインによる科研費説明会を実施した。	A
4-19 公的資金が適切に管理されているか。	公的資金を適切に管理する。	適切に管理した。	A
4-20 公的資金を適切に使用するための取り組みが行われているか。	公的資金の不正使用防止のための研修を実施する。	全教職員を対象とした公的資金の適正使用に関する研修会を実施した。	A
【外部教育資源の活用】			
4-21 外部の教育資源を有効に活用しているか。	外部教育資源を有効活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講義や地域教育で外部の教育資源を活用した。 ・課外活動指導員、学外コーチを配置した。 ・企業との共同研究を実施したほか、共催でテクノフェアを実施するなど、T&Bと連携した活動を展開した。 ・協定を締結している国内外の教育機関や企業と、学生・教員の交流や事業連携を行った。 	A
【スタッフ・ディベロップメント】			
4-22 SDが適切に実施されているか。	学内SDを実施する。また、機構主催のSDに職員を派遣する。	10月から3月まで月に1回事務職員対象にSDを実施した。また、職員を機構本部、国立大学法人、近隣大学等が実施する研修会に参加させた。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
【情報公開】			
4-23 法令に従い、学校の目的及び3つの方針が公表されているか。	学校の目的及び3つの方針をHPにより公開する。	HPにて公開している。	A
4-24 法令に従い、教育研究上の基本組織が公表されているか。	組織図をHPにより公開する。	HPにて公開している。	A
4-25 法令に従い、教員組織、教員の数並びに教員が保有する学位及び業績が公表されているか。	教員組織、教員の数、学位、業績をHPにより公表する。	HPにて公開している。	A
4-26 法令に従い、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況が公表されているか。	各種データを学校要覧に記載する。	HPにて公開している。	A
4-27 法令に従い、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画が公表されているか。	シラバス一覧、シラバス及び行事予定表をHPにより公開する。	HPにて公開している。	A
4-28 法令に従い、学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準が公表されているか。	成績評価基準、卒業・修了認定基準をHP（学則・教務規則）により公開する。	HPにて公開している。	A
4-29 法令に従い、校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境が公表されているか。	学校の施設・設備及び教育研究環境をHP（学校要覧）により公開する。	HPにて公開している。	A
4-30 法令に従い、授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用が公表されているか。	授業料、入学料その他の費用をHP（学校案内）により公開する。	HPにて公開している。	A
4-31 法令に従い、高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援が公表されているか。	修学支援室、キャリア支援室、学生相談室及び保健室等の支援体制をHP（学校要覧）により公開する。	HPにて公開している。	A
4-32 学校の目的及び3つの方針が教職員、学生に周知されているか。	学校の目的及び3つの方針を学内関係者に周知する。	HPにて公開している。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価	
基準5 準学士課程の教育課程・教育方法				
【教育課程の編成・内容・方法】				
5-1	カリキュラムポリシーに照らし、授業科目の配置は適切であるか。	授業科目の配置が適切であるか議論する。	適切であると判断した。	A
5-2	一般教育は充実しているか。	一般教育が充実しているか議論する。	適切であると判断した。	A
5-3	進級に関する規定は適切であるか。	進級に関する規定が適切であるか議論する。	適切であると判断した。	A
5-4	授業を行う期間は35週が確保されているか。	35週を確保する。	確保した。	A
5-5	特別活動は90単位時間以上確保されているか。	90単位時間以上確保する。	確保した。	A
5-6	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえた教育課程における配慮がなされているか。	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請を踏まえ、教育課程における配慮を行う。	グローバルエンジニア育成事業の一環として、英語による授業のまとめを推進するとともにDMM英会話の受講を促進している。	S
5-7	創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。	創造力を育む教育方法の工夫を行う。	プロジェクト学習、卒業研究のシラバスに創造力を養う科目であることを明記した。2・3年生全員及び大多数の4年生がプロジェクト学習を履修した。	A
5-8	実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。	実践力を育む教育方法の工夫を行う。	卒業研究、インターンシップのシラバスに実践力を養う科目であることを明記した。	A
【授業形態・学習指導法】				
5-9	カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置について議論する。審議内容を議事録に残す。	適切であると判断した。	A
5-10	教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。実施内容は職務上の活動に関する自己申告書により申告する。	グループ学習、対話型授業などの学習指導上の工夫が行われていることを確認した。	A
5-11	シラバスが適切に作成されているか。	シラバス作成マニュアルを配布し、シラバスを適切に作成する。	全教員に作成マニュアルを配布し、マニュアルに基づくシラバス作成を促した。	B
5-12	学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。	授業改善アンケートにより調査し、学生は概ねループリック、成績評価法等を把握していることを確認した。	A
5-13	教員はシラバスを有効に活用しているか。	職務上の活動に関する自己申告書により、教員のシラバス活用状況を調査する。	職務上の活動に関する自己申告書により調査し、有効に活用していることを確認した。	A
5-14	シラバスは適切に改善されているか。	シラバスの改善状況を調査する。	プロジェクト学習、インターンシップ、卒業研究のシラバスに実践力や創造力を養う科目であることを明記した。	A
5-15	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。事前・事後課題一覧表の提出率を上げるための取り組みを行う。	学修単位科目については事前・事後学習の課題一覧を作成し、学生に提示した。	A
5-16	学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	各教員が事前・事後学習の課題一覧に所要時間を記載し、合計時間が1単位当たり30時間となるように設計した。	B

点検項目	実施計画	実施状況	評価
【成績評価・単位認定・卒業認定】			
5-17 成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。	評価割合をシラバスに記載し、これに基づき評価を行った。	A
5-18 単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	卒業認定会議及び進級認定会議を実施した。	A
5-19 成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	授業改善アンケートに当該項目を追加し、認知状況を調査した。	A
5-20 試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	試験後に答案を返却し、模範解答を示した。	A
5-21 試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。点検結果は学科会議の議事録に記載する。	各学科において試験問題の点検を行い、学科会議議事録に記載した。	B
5-22 成績評価の事後チェックがなされているか。	成績評価の事後点検を行う。点検結果は学科会議の議事録に記載する。	各学科において成績評価の事後点検を行い、学科会議議事録に記載した。	A
5-23 複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。点検結果は学科会議の議事録に記載する。	各学科において複数年に渡る同一問題の点検を行い、学科会議議事録に記載した。	A
5-24 卒業認定基準を学生に周知しているか。	卒業認定基準を学生に周知する。	入学時に配布する学生便覧及びHPに教務規則を掲載することにより周知した。	A
5-25 卒業認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	卒業認定基準の周知状況をアンケートにより調査する。	授業改善アンケートに当該項目を追加し、認知状況を調査した。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価	
基準6 準学士課程の学生の受け入れ				
【準学士課程の学生の受け入れ】				
6-1	アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	学力選抜においては学力試験及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜した。	A
6-2	アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	推薦選抜試験においては、推薦書及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜した。	A
6-3	アドミッションポリシーに沿った帰国子女選抜試験が実施されているか。	APに沿った帰国子女選抜試験を実施する。	志願者がいなかったため実施していない。	—
6-4	入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。特に、推薦選抜試験による入学者に対しては、採点基準が適切であるか分析する。	入学生がAPに沿っているかについて、PROGテストの結果を用いた検証方法を検討した。次年度より実施する予定である。	—
6-5	検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	6-4の検証結果をもとに改善計画を策定する予定である。	—
6-6	入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	入学者数は適正であると判断した。	A
6-7	入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	入学者数は適正であったため、該当しない。	—
基準7 準学士課程の学習・教育の成果				
【準学士課程の学習・教育の成果】				
7-1	成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業及び進級認定会議を実施する。	卒業認定会議及び進級認定会議を実施した。	A
7-2	卒業時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業時に学生へのアンケート調査を行う。	卒業生に対するアンケートをTeamsにより実施した。到達目標に対する達成度は95%を超えており、学習・教育の成果が認められる。	A
7-3	卒業生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	今回は令和4年度に実施予定である。	今回は令和4年度に実施予定である。	—
7-4	就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	今回は令和4年度に実施予定である。	今回は令和4年度に実施予定である。	—
7-5	進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	今回は令和4年度に実施予定である。	今回は令和4年度に実施予定である。	—
7-6	就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	令和3年度の就職率は100%であった。	A
7-7	進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	令和3年度の進学率は100%であった。	A
7-8	就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	各学科のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。検証結果は学科会議議事録に記載する。	学科会議において就職先・進学先一覧を提示し、情報を共有した。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準 8 専攻科課程の教育活動			
【教育課程の編成・内容・方法】			
8-1	カリキュラムポリシーに照らし、適切な授業配置となっているか。	授業科目の配置が適切あるか議論する。	大学改革支援・学位授与機構の特例適用の認定を受けており、適切に配置されていると判断した。
8-2	専攻科の教育課程は準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか。	専攻科の教育課程が準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか審議する。	大学改革支援・学位授与機構の特例適用の認定を受けており、考慮した教育課程となっていると判断した。
【授業形態・学習指導法】			
8-3	カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置について議論する。	適切に配置されていると判断した。
8-4	教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。実施事項は職務上の活動に関する自己申告書に記載する。	教材の工夫、少人数教育、フィールド型、対話型の授業を実施した。また、1・2学期実施のオンデマンド授業では、情報機器活用の利点を活かした授業を展開した。
8-5	学生への教養教育や研究指導が適切に行なわれているか。	教養教育や研究指導を適切に行う。	大学改革支援・学位授与機構の特例適用の認定を受けており、適切に行われていると判断した。
8-6	シラバスが適切に作成されているか。	シラバス作成マニュアルを配布し、シラバスを適切に作成する。	全教員に作成マニュアルを配布し、マニュアルに基づくシラバス作成を促した。
8-7	学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。	授業改善アンケートにより調査し、学生は概ねルーブリック、成績評価法等を把握していることを確認した。
8-8	教員はシラバスを有効に活用しているか。	職務上の活動に関する自己申告書により、教員のシラバス活用状況を調査する。	職務上の活動に関する自己申告書により調査し、有効に活用していることを確認した。
8-9	シラバスは適切に改善されているか。	シラバスの改善状況を調査する。	シラバス作成マニュアルを配布し、適宜改善するようアナウンスした。
8-10	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。事前・事後課題一覧を保管するとともに、学科ごとに点検し、点検結果を学科会議議事録に記載する。	事前・事後学習の課題一覧を作成した。
8-11	学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	各教員が事前・事後学習の課題一覧に所要時間を記載し、合計時間が1単位当たり30時間となるように設計した。

点検項目	実施計画	実施状況	評価
【成績評価・単位認定・卒業認定】			
8-12 成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。学科会議にて審議し、会議議事録に記載する。	評価割合をシラバスに記載し、これに基づき評価を行った。	A
8-13 単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	修了認定会議を実施した。	A
8-14 成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	授業改善アンケートの質問項目により把握した。	A
8-15 試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	答案の返却及び模範解答の提示を実施した。	A
8-16 試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。専攻科委員会や学科会議にて審議し、会議議事録に記載する。	各学科において試験問題の点検を行い、学科会議議事録に記載した。	B
8-17 成績評価の事後チェックがなされているか。	成績評価の事後点検を行う。点検結果は学科会議議事録に記載する。	各学科において成績評価の事後点検を行い、学科会議議事録に記載した。	A
8-18 複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。点検結果は学科会議議事録に記載する。	各学科において複数年に渡る同一問題の点検を行い、学科会議議事録に記載した。	A
8-19 修了認定基準を学生に周知しているか。	修了認定基準を学生に周知する。	入学時に配布する学生便覧及びHPに教務規則を掲載することにより周知した。	A
8-20 修了認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	修了認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	各学期開始時にオリエンテーションを実施し、不明な点が無いか質問する機会を設けた。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
【準学士課程の学生の受け入れ】			
8-21 アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	学力選抜においては学力試験及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜した。	A
8-22 アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	推薦選抜試験においては、推薦書及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜した。	A
8-23 アドミッションポリシーに沿った社会人選抜試験が実施されているか。	APに沿った社会人選抜試験を実施する。	当該年度は志願者がいなかったため、実施していない。	—
8-24 入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。	入学生がAPに沿っているか検証を実施した。	A
8-25 検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	検証結果に基づき、AP改定の検討作業を進めている。	A
8-26 入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	専攻科の入学者数に対して、機構本部の見解を確認中である。	B
8-27 入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	年度末までに定員超過に関する改善計画を検討してきた。	B
【準学士課程の学習・教育の成果】			
8-28 成績評価・修了認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了認定会議を実施する。	修了認定会議を実施した。	A
8-29 修了時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了時に学生へのアンケート調査を行う。	修了生に対するアンケートをTeamsにより実施した。到達目標に対する達成度は95%を超えており、学習・教育の成果が認められる。	A
8-30 修了生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
8-31 就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
8-32 進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
8-33 就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	令和3年度修了生の就職率は100%となった。	A
8-34 進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	令和3年度修了生の進学率は100%となった。	A
8-35 就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	各専攻のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。	学科会議において就職先・進学先一覧を提示し、情報を共有した。	A

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準9 研究活動の状況			
【研究活動の体制】			
9-1 研究活動の目的、方針は適切であるか。	本校の研究活動の目的及び方針を定める。	適切であると判断した。	A
9-2 研究活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	研究活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	地域共同テクノセンター委員会及び同センター推進室会議を定期的 に実施した。	A
【研究活動の状況】			
9-3 研究活動が十分に行われているか。	研究活動の状況を把握する。	学内の研究活動の状況を集約し、報告書にまとめた。	A
【研究活動の成果】			
9-4 目的、方針に沿った研究活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った研究成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	地域共同テクノセンター委員会において、研究活動の集約結果を提示し、本校の目的に沿っているか確認した。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表した。	A
基準10 地域貢献活動等の状況			
【地域貢献活動の体制】			
10-1 地域貢献活動の目的、方針は適切であるか。	地域貢献活動の目的及び方針について審議する。	適切であると判断した。	A
10-2 地域貢献活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	地域貢献活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	地域共同テクノセンター委員会及び同センター推進室会議を定期的 に実施した。	A
【地域貢献活動の状況】			
10-3 地域貢献活動は十分に行われているか。	地域貢献活動の状況を把握する。	学内の地域貢献活動の状況を集約し、報告書にまとめた。	A
【地域貢献活動の成果】			
10-4 目的、方針に沿った地域貢献活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った地域貢献活動の成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	地域共同テクノセンター委員会において、研究活動の集約結果を提示し、本校の目的に沿っているか確認した。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表した。	A